



福島第一原発の汚染処理水

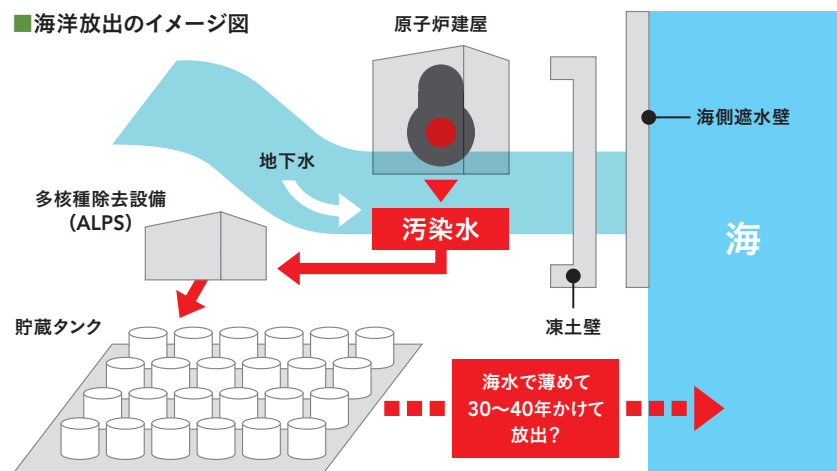
最終処分は海へ放出?

福島第一原発の敷地内では、原子炉内の燃料を冷却する水と地下水が混ざり、高濃度の放射性物質を含む汚染水が発生し続けています。国は保管タンクを置く敷地が2022年夏頃には不足するとして最終処分の決定を急いでいますが、海に流すなどの案には不安の声も……。NPO法人原子力資料情報室の共同代表・伴英幸さんに現状と課題についてうかがいました。

増え続ける放射性物質を含んだ水

現在、福島第一原発で発生している高濃度放射能を含んだ汚染水は、多核種除去設備(ALPS)で処理をしたあとにタンクで貯蔵。3月段階で、979基のタンクに、119万m³の処理水が貯蔵されています。この処理水にはALPSで除去できない放射性物質のトリチウム(※)約860兆Bqが含まれています。さらに、本来は低減できるはずのヨウ素129、ストロンチウム90などトリチウム以外の放射性物質も国の基準値を超えて残っていることが明らかになっています。

(※)半減期12.32年の放射性物質。化学的性質が水素と同じで、トリチウムを含む水と通常の水の区別ができず、ALPSでは除去がむずかしい。



「海洋放出」への不安と反対の声

放射性物質を含むALPS処理水について政府は、この夏には最終処分方法を決めたいとしてきました。現在、一般からの意見を募るパブリックコメントの募集期間を経て最終的な検討段階に入っています。原子力資料情報室の伴英幸さんは、「2018年に福島と東京の3会場で行われた政府の公聴会では、意見陳述人44名のうち42名が海洋放出に反対。タンクでの陸上保管を提案していました」と話します。

「市民グループなどから、大型タンクでの長期貯蔵案、コンクリート容器の中に固めて半地下で処分する『モルタル固化』案なども出たのですが、今年2月に経産省の有識者小委員会が出した最終報告書は、『海洋または大気中への放出が現実的』という内容でした」(伴さん)

東京電力は、海洋放出の場合にはトリチウム以外の放射性物質を基準値以下まで除去し、海水で薄めたうえで30~40年かけて海に流すとしています。「各地の原発施設などからもトリチウムが排出されていますが、今回は約860兆Bqと量が多く、ほかの多くの放射性物質も放出されることが懸念されます」

次世代のためにも

「原発事故以降、少しずつ回復をめざしてきた福島県の漁業者にとって放射性物質の海洋放出は死活問題。県を越えて拡散していくため、茨城県の知事や漁業者からも反対の声があがっています」と伴さん。今年4月と5月に政府が開いた関係者の「ご意見をうかがう場」で、各地の漁協や農協、森林組合は環境への放出に反対。さらに、福島県内の15市町村議会も放出への反対や陸上保管を求めています(7月27日時点)。

「国は海洋放出以外の案に否定的ですが、大学でもトリチウム分離除去の研究が進められており、長期保管すれば放射性物質が減衰するメリットもあります。次世代のためにも、さまざまな立場の人が対等に話し合える場をつくり、合意のうえで決めることが必要ではないでしょうか」(伴さん)

パルシステムは4月、ALPS処理水について政府に意見書を提出し、海洋放出や大気への水蒸気放出への強い懸念を表明。生活環境に排出すべきでないこと、情報公開や合意形成の徹底、トリチウム排出のモニタリング及び環境影響調査データを公開すべきとするパブリックコメントを経済産業大臣に提出しています。

パルシステムは厳しい基準で放射能検査を実施し、これからも組合員の安全安心に継続して取り組みます

パルシステムは原発事故直後から国よりも厳しい自主基準(独自ガイドライン)で検査を実施し、結果をこの『放射能レポート』やインターネットで公表しています。これまで毎年3000件近くの検査を行い、近年の放射能の検出は限られた一部の食品となっています。これからも取り組みを継続し、安全安心な食品をお届けしていきます。

放射能検査状況について

2020年度の検査数(カッコ内は検出件数)
2020年7月1日現在

総計: 349(7) 不検出率: 98.0%

2019年度の検査数 総計3025(30) 不検出率99.0%

青果	133(0)	2019年度は2検体のれんこん(2品とも3.0Bq/kg)、伊予柑(3.1Bq/kg)から放射能が自主基準内で検出されました。
しいたけ	8(7)	2019年度は生しいたけ(4.3~15Bq/kg)、岩手県産乾しいたけ(6.6Bq/kg)、冷凍産直原木しいたけ(カット)(5.8Bq/kg)、2020年度は生しいたけ(5.0~10.0Bq/kg)から放射能が自主基準内で検出されました。
他のきのこ類	16(0)	2019年度に続き、7月1日現在で放射能の検出はありません。
米・米飯類	0(0)	現在お届けの2019年産の玄米検査で放射能の検出はありません。(2020年産新米は8月より供給予定です)

牛乳、肉、卵	8(0)	産地ごとに定期的に検査しています。2019年度に続き、7月1日現在で放射能の検出はありません。
魚介類	19(0)	2019年度に続き、7月1日現在で放射能の検出はありません。
飲料水・飲料	7(0)	2019年度に続き、7月1日現在で放射能の検出はありません。
乳幼児用食品	34(0)	2019年度に続き、7月1日現在で放射能の検出はありません。
その他加工食品	124(0)	2019年度は茨城の紅はるか干しいも(3.7Bq/kg)、ほしいも(3.6Bq/kg)から放射能が自主基準内で検出されました。

※乳幼児用食品のみ検出下限値1Bq/kg、その他は検出下限値3Bq/kg。



● 週次の「放射能関係のお知らせ」はインターネットに掲載しています。
● インターネットから見られない方はこちらにお問い合わせをお願いします。

パルシステム東京・パルシステム神奈川ゆめコープ・パルシステム千葉・パルシステム埼玉・パルシステム茨城 栃木・パルシステム福島・パルシステム静岡・パルシステム新潟ときめき
パルシステム
問合せセンター
☎0120-868-014
月~金曜日:9時~20時
土曜日:9時~17時
※お問い合わせ内容の確認とサービス向上のために、通話の内容を録音しております。

パルシステム山梨
甲斐センター ☎0120-28-5891
西桂センター ☎0120-32-1061
一宮センター ☎0120-21-9898
パルシステム群馬
高崎センター ☎0120-60-5118
渋川センター ☎0120-36-3315
東毛センター ☎0120-63-3735
※センターによって、携帯電話からはご利用できない場合があります。